

かめっ子 元号

発行: 神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ

〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川1-29 東部療育ビル3階

TEL/FAX 045-441-3901 URL <https://kana-chie.com>

第67号

2023年2月発行

顔と顔を合わせられる幸せ♡

長い長いウィズコロナの
自粛期間もようやく緩んで
交流を深められる時間が
戻ってきそうな気がします。

そんな中、三年ぶりに
かめっ子研修会が

開催されました(拍手👏)。

コロナ禍の子育て世代の現状や

子どもをとりまく

環境の変化を知り、

だからこそ今できることを

支え手の皆さんと

考え、学ぶ機会になりました。

何より、

皆さんと一緒に、ギュッと、

集中するひと時をもてた

幸せをかみしめることが

できました。

顔と顔を合わせられるって

本当にいいですね。

神奈川区には、子育て・子育てを

まち全体で考え、

見守る温かいまなざしが

脈脈と受け継がれている…

改めてその大切さが感じられる
時間になりました。

<大口七島地区>

静かな住宅街の中で、かめっ子ののぼり旗が見えたと同時に、
ワイワイと湧き上がるような人の声や赤ちゃんの泣き声が聞こえてきて
「ここだ～」と場所を確認することができました。

「妻がかめっ子に行くよ～と誘ってくれたので、仕事に行く途中で寄
ってみました」とお父さんも参加。「人が集まる場に興味があったの
で、来て良かった♪」と、数組の親子に囲まれていました。

支え手さんから…

町で、「かめっ子やっていますか～?」と声をかけられ、「休まずやっ
ているよ」というと、「今度行きますね♥」と返してくれることがありが
たい。「15年続けて来て、赤ちゃんだった子どもが、中学生になっても
“かめっ子のおばちゃん”と町で呼んでくれて、嬉しい」

利用者の声から…

「かめっ子に来ることが当たり前になっています」「ここに来て、みんなと
話をするスッパリして帰れるリフレッシュの場」
「ここで出会った人に町でバツリ合うと、声をかけやすい」



親子のたまり場訪問



<松見第3地区>

大きな窓ガラスからは、庭が見えて、夏はプールを出して水遊びができ
ること♪会場の中には、様々な自治会のチラシが、手に取りやすく、
見やすい状態で配置されていました。

「自己嫌悪になる時がある」と、子育ての悩みを話し出した参加者の
お母さんに、支え手さんが「そうそう、私もあったわ～」と共感する言葉
をつぶやく場面にも出会いました。

かめっ子は、身近な子育て相談の場になっています♪

支え手さんから…

「自分の娘も同じように子育て奮闘中かと思うと、身内のような感じで
接することができる。たくさんの親子に会えるので自分にとってもいい
時間。子どもたちが、かわいくて、かわいくて♥」と、話してくれました。



まちの情報が
いっぱい!



一就労家庭の増加と子育て事情の変化一

かめっ子のできること・必要なわけ

講師：土谷みち子先生

関東学院大学元教授

NP0 法人こどもと未来—おひさまでたよ—理事長

コロナ禍での出産、育児 ママパパはどんな経験をした？

産院でも人と距離をとって過ごし、産後も他の親子と会う機会や、他の親が子育てをする様子を見る機会がない

誰も赤ちゃんの育て方を教えてくれなかった



赤ちゃんとの過ごし方がわからない
これで良いのか自信がもてない

妊娠出産状況の変化、変容

10代、40代の出産が増加

思いがけない妊娠と、長期の不妊治療後、
出産することがゴールで精一杯！

キャリア中心の生活や、コロナ禍で実家を
頼れないなど、周囲のサポートを得られず
孤立している

虐待の調査から

4年連続で、死亡した子どもは0歳が最も多
く、47.5%

なかでも出生当日の死亡は、産み落としたまま
放置された事例と考えられ、孤独な妊娠期を過
ごしたと考えられる

3歳児以下を含めた割合は77%

産後1年未満で自殺した母親は92人

(2016年度までの2年間)

先進国35か国で日本は最多 OECD 調査2018年

自殺した時期は、産後すぐから1年を通しておき
ている。35歳以上や初産、就労者のいない世帯
などでその割合が高い傾向がある

多くは産後うつが関係しているとみられる

～産科医や助産師のからの声～

生後3か月までは子の養育はとても大変

少し落ち着いてくる生後4か月を過ぎても母親の
自殺数が減らないのは衝撃だ

「産後ケア」を充実させることが大切

子どもをとりまく環境

コロナ禍で生活が大きく変わった

小中学生は屋外で過ごす時間は減ったが、自宅で
過ごす時間、PCやスマートフォンを見る時間、
SNSをする時間は圧倒的に増えた

2018年度の調査で、何歳からスマホを使い始め
ましたかと聞いたところ、

6歳児は0歳からスマートフォンを使用したの
は2.7%、0歳児は35.1%が使用していた
数年間で0歳児のスマートフォン利用が1.3倍
に急増した

スクリーンタイムとは

テレビ、DVD、PCやスマートフォン・タブレッ
ト・動画・ゲーム等ITC機器を使用する総合時間
のこと。WHOは2019年、2歳児未満は1日0時間、
2～4歳は1日1時間未満の使用を推奨している

使用の制限、1歳まではがんばろう！

WHOはゲーム障がい(ゲーム依存)を病気として認定した

ゲーム依存は禁断症状など、麻薬やアルコール依存と同
じ症状を示します

IT機器の与え方

使うときの「お約束」を作り、利用習慣を身に付けよう
外出するときは機器以外で「飽きさせない」「楽しませ
る」を工夫してみよう

スマホがなかった時の子育て、先輩パパママに聞いてみ
てもいいかも？

これからのサポートのポイント

幼児期の前に乳児期の育ちの確認が重要

子どもの元々持っている、自ら育とうとする力、難しいことをチャレンジしようとする成長、発達をひきだす

赤ちゃん時代はことばのビルの下 の階をしっかりと育てる

ことばの健やかな育ちを促すために、赤ちゃん時代からくすぐったり、抱きしめたりたくさんのかかわりをしよう

- ・ おおよその生活リズムをつくる
- ・ 寝返り、腹ばい、立つ、歩くなど体を動かして刺激を脳に送り出す
- ・ 1日5分の“笑タイム！”くすぐったり、抱きしめたり、親子で楽しく遊ぶ時間をもつ

発達障がいのとらえ方

虐待を受けたり、養育者がうつだった場合、発達障がいの行動特徴に似た行動ができることがある
保育の工夫で成長事例も多い

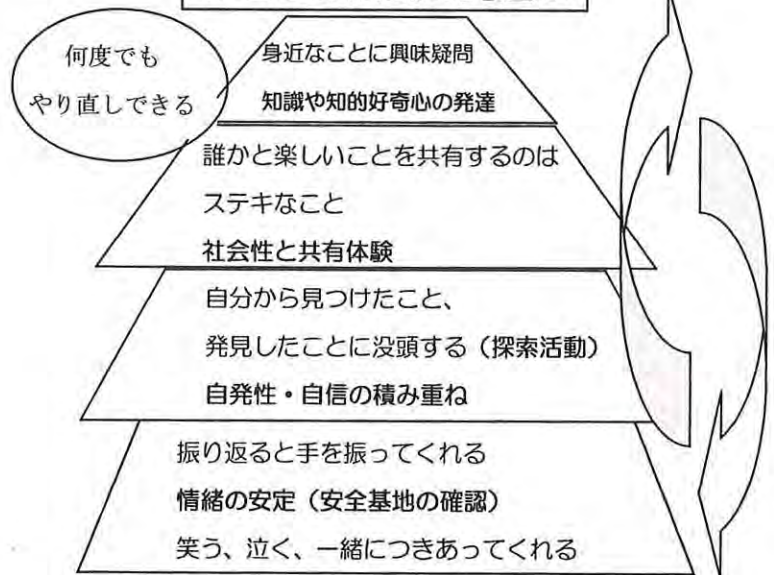
愛着（アタッチメント）の重要性

特定の大人との信頼関係は基本的信頼＝希望
これが育っていないと基本的不信が生じる
大人に期待しない、試し行動をするようになる
自分の可能性・自立感＝意志力
育っていないと感情のコントロール不全になる
悪いことをすると怒られる大人の存在がない
将来の「規範意識」の低下につながる

赤ちゃん時代から、目と目を合わせてコミュニケーションをとることが大切

授乳の時、赤ちゃんとも目合わせていますか？
スマートフォンばかり見ていないですか？

子どもの成長の見通し



子どもから（信頼する）大人への愛着行動

- ① よじ登り（体に登り顔やからだに接触）
- ② 追視やあと追い（分離不安）
- ③ 分離による泣き（園へ送る時など）
- ④ 安全基地からの探索
- ⑤ 親にだけ異なる分化した泣き、発声
- ⑥ 怖いときのしがみつき
- ⑦ 両腕をあげる再会の喜び（お迎えなど）
- ⑧ 顔やからだ埋め
- ⑨ 大人の位置確認
- ⑩ 探索からの贈り物（安全基地への戻り行動）

この行動があれば大丈夫！
子育てうまくいっている！

支援者だからできること

まずは親に子育ての自信をつけてもらう
愛着行動を振り返る機会を持つことで
自信がつく

共働き世帯が増えて、子を保育園に預け、親子の時間を取れないことを悩む親も増えている
職場復帰した後や子が大きくなっても、大人への愛着行動を振り返ると親が自信を持てるようになる
職場復帰した親が集まれる場、子育てを語れる場を作ることもサポートになる



参加した皆さん
からの感想(抜粋)



現在の子育て状況がわかりました

- ◎便利なモノが増えて、生活が楽になったように思われる現代ですが、何か人間性は失われているな～と思いました。
- 小さな力でも、“世話やきばあば”として、頑張っていきたいと思います。
- ◎愛着行動の大切さが分かりました。かめっ子でも話をしたいと思います。
- ◎お母さん、お父さんが子育てに苦労されているのは、“社会の不寛容さ”が背景にあるのではないかと思います。
- ◎祖母や母が、いつも赤ちゃんに対して話しかけたり、触ったりしている姿を目にしていたので、私も自然とそのように接することができました。
- そういったことが一番大切なことだったんですね

コロナ禍で大切にしたいことが見えてきた

- ◎コロナ禍を経ての子育て世代の現状を、改めて深く知る機会になりました。
- その上で、どう関わっていくのかを多くの地域の皆さんと考えていく必要を、ヒシヒシと感じます。
- ◎コロナ禍での子育て中の方々の悩みを聞き、居場所の大切さを感じました。たくさんの方に、参加を呼びかけたいです。

今日の研修会を地域の子育て支援「かめっ子」へ活かす

- ◎かめっ子でやってみたいと思ったのは、利用者さん親子と腹ばいになったり、ふれあい遊びをしたり…愛着を増やしていきたいです。
- ◎これからのかめっ子でのママや子どもたちへの接し方やふれあい方にも、力と自信をもらいました。お話素敵でした。
- ◎子どもの居場所にいる者として、少しでも孤独なお母さんたちの力になればと思いました。少しでも今日のお話を活かしたら…と思います。
- ◎かめっ子で何ができるか？
本気でいっしょに遊ぶ、ママに声を出して笑ってもらう、ここから始めます。
- ◎授乳やミルク時のコミュニケーションについても、ハッとさせられました。
赤ちゃん訪問の時に、お母さんたちに伝えたいと思いました。
- ◎子ども無しでも、かめっ子に参加してもらえ(幼稚園・保育園等に行っていない)パパの日、マタニティ期、孤独でないことを伝えられる、気軽におしゃべりできるスタッフになりたい…と思いました。

◆研修会に先立ち、東田樹治さん(三枚地区社会福祉協議会会長)を講師にお招きして、Zoom 講習会を開催しました。コロナ感染症拡大防止で、会場に出向かず、オンラインの会議や研修で Zoom に触れた方もいらしたのではないのでしょうか？当日は、Zoom の視聴方法を改めて学ぶだけでなく、一歩進んでホストの体験や、カメラ・マイクの繋ぎ方も教えてもらいました。研修会当日は、Zoom を使って、2会場、ご自宅からの参加もありました。

Zoom講習会



【編集後記】

このシールを
町の店舗で
見かけた
ことは
ありますか？



横浜市子育て家庭応援
事業「ハマハグ」です。

親子で外出した際に、
オムツ替えの場や
ミルクのお湯提供、
ベビーカーで来店可
などの、
サービスを
分かりやすく提示
してくれています。

地域で活動する
グループと一緒に、
区内にもっと協賛店舗
を増やしたい！

ご興味のある
かめっ子さんも
募集中です。